



乳剤と製版の取り扱いについて

製版用乳剤は、化学物質の混合体です。常に安定した性能・効果を得るためには、適切な取り扱いが必要です。印刷品位の向上のためにも、下記項目をよくお読み頂き、当社の乳剤の能力を十分に引き出し下さるよう、ご理解をお願いいたします。なお、感光剤（ジアゾ）の混合方法については、別紙をご参照ください。

1. 乳剤は、冷暗所に保管してください。

乳剤本体 → 空調のある冷暗所（518系・168系共に）

感光粉 → 5～15℃の冷蔵庫内
（感光粉混合後の乳剤も同様）



0℃以下の保存は行わないでください！

2. 使用時は作業場所の温度に合わせてください。

冷蔵庫 → 作業場所 【温度を合わせる方法】

10℃ 23℃

- ① 数時間前から作業場所に乳剤を放置しておく。
- ② 湯煎して温度を暖める。



温度が低すぎると粘度が高くなり、流動性も損なわれるため、適切な塗布ができません。



3. 使用時は乳剤を攪拌してください。

作業場所の温度に乳剤を合わせたら、ガラス棒などで乳剤をよく攪拌してください。



乳剤は様々な物質の混合体です。分子の分散は、保存状態で変わることもあります。安定した性能・効果を出すためにも、適切に攪拌することをお勧めします。

4. 顔料の現出も、攪拌で解消できます。

顔料が容器内の乳剤表面に浮いたり、塗布膜の中に認められた場合、使用前に乳剤を攪拌してください。



顔料もそれ自体が粒子であり、その大小で目に見えるか見えないか、というものです。粒子が集まって見えてしまう際には、攪拌で分散させてみてください。

5. 使用後の乳剤は濾過してください。

塗布などで一度使用した乳剤を元の容器に戻す際は、適切なメッシュで濾過してから戻してください。1キロボトルで2時間前後で濾過が終わるのが適正なメッシュといえます。



ゴミや異物を取り除くために必要な作業です。出来るだけ実施してください。

6. 容器のゴミにご注意ください。

容器のフタのネジ部分は、乳剤が乾いて異物となります。使用時には丁寧に拭いて、清潔にしてください。



7. 塗布工程では室内の湿度を高めにしてください。

塗布室内が乾燥していると、バケットの先端がすぐに乾いたり、版膜上で塗布ムラも発生しやすくなります。湿度を60～80%に保つと良いでしょう。



バケットをしばらく放置する時は、水を含んだウエスでバケットの先端を拭き取り、フタをしてください。

8. 塗布工程では風が当たらないようにしてください。

塗布室内では、バケットや版膜に風が当たらないようご注意ください。



ゴミの混入や、塗布ムラの原因になります。

9. 塗布した版膜は十分に乾燥させてください。



乾燥不足で露光・現像を行うと、版膜に不具合（現像ムラ・膜剥がれ等）が発生しやすくなります。



10. PS版として保管する場合。

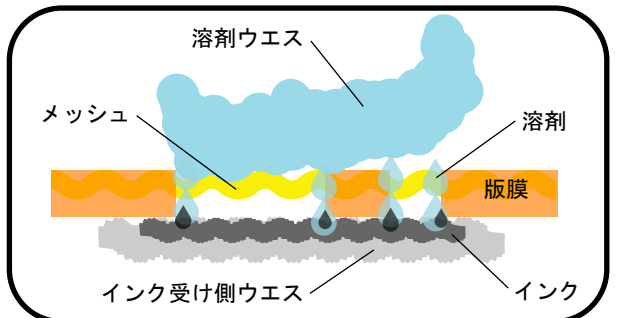
できるだけ室温23℃以下、湿度40%以下の暗所に保管してください。



露光時には、一旦乾燥機に入れて、版膜をよく乾燥させてから露光してください。ただし枠温が高いまま露光しないでください。

10. 印刷後の製版の洗浄方法。

1. ヘラでスキージ面のインクを十分に除去します。
2. 台の上に画像の大きさのウエスを敷きます。
3. ウエスの上に製版の画像部を乗せます。
4. 別のウエスに洗浄剤をたっぷり含ませ、画像内のインクを洗い流すようにして、下のウエスに染み込ませます。
5. 最後に印刷面に残ったインクを、洗浄剤を含んだウエスで静かに拭き取ります。



印刷面では絶対に版膜を強く擦らないでください。網点や抜き文字の乳剤が剥がれてしまうことがあります。

12. 印刷後の製版の保管。

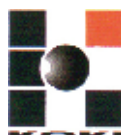


印刷後の製版の保管は、できるだけ右の条件下にて、保管してください。

温度 18～25℃

湿度 55%以下

お問い合わせは・・・



有限会社 光毅

〒130-0012 東京都墨田区太平4-6-17-201

TEL: 03-3626-7520 FAX: 03-3626-7521

www.koki-co.com info@koki-co.com